

○国際交流・社会貢献等の概要

●海外との協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との提携はない。

●大学間連携

「単位互換に関する包括協定」の締結

群馬県内の7大学 群馬大学、群馬県立女子大学、関東学園大学、上武大学、東洋大学、共愛学園前橋国際大学、放送大学で単位互換に関する包括協定を取り交わしている。

これらの大学間のいずれかに在籍する者で「特別聴講学生」として受け入れを認められた者は、この協定により他大学の授業科目を履修し、単位を修得することができる。

●産学官連携

○群馬ダイヤモンドペガサスとのスポーツマネジメントにおける以下に掲げる項目等に関する産学連携

1. スポーツマネジメントの研究と実践（スポーツビジネスにおけるマネジメント調査・研究）
2. 地域活性化策の共同研究と実践（地元商店街とのタイアップ事業構築）
3. ボランティア運営の研究と実践（開催ホームゲームにおけるボランティア組織作りと実践）
4. その他、地域貢献における研究

○伊勢崎市教育委員会との伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する連携
将来の社会を担う国際的視野に立った立派な人材を育成するために、本学と伊勢崎市教育委員会で相互連携・協力を行うもの。本学からは、伊勢崎市立学校のカリキュラムパートナーとして、従来までに培った教育資源を活用し、伊勢崎私立学校の教育活動の円滑な推進に対して可能な範囲で支援を行っていく。また伊勢崎市教育委員会では、本学で必要とする教育情報の収集や研究・研修の場として、可能な範囲で提供を行っていく。

○中小企業金融公庫前橋支店との相互協力協定

本学における研究成果等を地域社会にいつそう円滑に還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより、地域の産学連携を推進し、もって地域中小

企業及び地域社旗の発展に貢献することを目的として協定を締結した。

具体的には、①本学における研究成果等のシーズと地域中小企業の経営相談ニーズのマッチングのコーディネートを行っていく。②中小企業金融公庫前橋支店の取引先からの経営相談に関する支援、③地域中小企業の経営相談の情報収集及びそれに対する情報提供などの事項に取り組んでいく。

○群馬県が主導する「ぐんま地域・大学連携協議会」へ参画し、行政（市町村等）が問題提起するモデル事業に共同して取り組んでいる。これは地域と大学との連携・協働を促進し、大学等の知的資源を地域課題の解決に活用する仕組みを構築するためのものである。

・ 21年度採択モデル事業

太田市より事業所の子育て支援策と労働環境の整備に係る自治体の役割」

・ 22年度採択モデル事業

伊勢崎市より「ものづくり企業の販路拡大のためのインターネット活用策の研究」

●社会貢献

○公開講座

平成 25 年 10 月 14 日

雑草祭 公開講座「小池邦夫の絵手紙のすすめ」

同時開催 第 3 回絵手紙公募展 テーマ「野の草花」 公募絵手紙 約 1,200 点（含 上武大附属幼稚園園児 約 120 名） 雑草大賞 11 名と園児 4 名 雑草賞 36 名と園児 4 名（計 15 名と 40 名となる） 公開講座の参加者は 600 名程の応募の内、先着 400 名とする。テーマは「手」

平成 25 年 12 月 24 日

小池邦夫公開講座「絵手紙の橋 クリスマスプレゼント」 若者と中高年の手がきコミュニケーション（プロ野球選手と一緒にかこう） 谷口英規（上武大硬式野球部監督）、加藤翔平（ロッテ）、三木亮（ロッテと契約、ビ情 4 年） 松村里穂（ミスユニバース群馬県代表、看護 3 年） 他 参加者約 300 名。前半は小池邦夫先生による講話、後半は自分の手、腕時計などを絵手紙にかく。

平成 26 年 6 月 21 日

上武大学手がき文化研究所開設記念第 1 回公開講座「棟方志功」を開催。講師は研究所所長の小池邦夫先生（会場：三俣記念館、開催時間：13 時

～14時半)。一般参加者の他、運動部監督、学生も聴講。会場はほぼ満席となる。

・パソコン講座 伊勢崎キャンパス

講師/上武大学ビジネス情報学部教授 小坂橋聡

平成26年2月12日・14日・19日・21日・26日

第1回 パソコンの起動、終了、文字の入力方法

第2回 文章の入力

第3回 文章の保存と読み込み、印刷

第4回 いろいろな編集機能

第5回 各種文書作成

○授業を通じたボランティア活動

・2014 県民参加フェスタ in 観音山ファミリーパーク

平成26年5月17日～18日

学生40名

県民フェスタのボランティアスタッフ

・災害時炊き出し体験、防災学習会ボランティア

平成26年6月21日

学生6名

群馬県立高崎工業高校を会場に、市内小中学生、高校生、市民とともに防災意識の向上

・第15回藤華祭ボランティア

平成26年6月21日

学生1名

藤岡市みかぼみらい館において、来場者の受付や誘導、地元の農産物の販売

・高崎市新町七夕まつり

平成26年6月21日、7月3日、4日(準備)／

7月6日～7日(当日)

学生58名

お祭りの企画・運営／地元産品・食品の販売、音楽イベントでのパフォーマンス、その他各種イベントの補助など地元のお祭りを支援

- ・ 学生が考えた駅からハイキング
平成 26 年 7 月 6 日
学生 10 名
高崎市新町七夕まつり開催中、関東一円の約 600 名のハイカーの方に新町の道案内・史跡説明、絵手紙体験をされた約 100 名のハイカーの方の補助
- ・ 上武大学パトロール隊
平日 14 時 30 分～16 時 30 分の間約 1 時間
学生 10 名(交代で)
地元の小学校の通学路のパトロール
- ・ 夏の県民交通安全運動に伴う合同街頭一斉指導
平成 26 年 7 月 11 日～17 日の間 3 日間
学生 2 名
小学生の道路横断の補助、ティッシュやビラ配り
- ・ 第 40 回高崎まつりボランティア
平成 26 年 5 月上旬～(準備)／
8 月 2 日、3 日(当日)
学生約 70 名
ボランティアリーダー 3 名を中心に役割、人員配置、課題の検討／こどもたちへの遊び指導、創作だるまの展示支援、掃除支援など
- ・ 角田病院施設祭ボランティア
平成 26 年 8 月 23 日
学生 5 名
入院患者・入所者誘導、模擬店出店の支援など

○手がき文化研究所発足

平成 26 年 4 月 1 日より、上武大学高崎キャンパス内に「手がき文化研究所」を新たに設置した。これは絵手紙や絵画、書など手でかかれたものを幅広く研究対象とし、それらの調査研究、普及活動などを行うことを目的として設置されたもので、所長には本学客員教授で日本絵手紙協会会長の小池邦夫先生が就任され、顧問として澁谷朋子理事長が同じく就任されている。

デジタル化が進み、学生たちが筆を持つ機会はますます減少しているが、

手でかいたものには他に代えがたい魅力がある上、手でかくという行為自体に脳を活性化する効果があるという。大学としてはこうした調査研究が本学における教育研究活動の活性化に繋がるものと考えており、既に群馬県高崎市にある日本三大古碑の1ひとつである「多胡碑」についての調査研究を進めている。今後は手がきに関する公開講座なども同時開催しながら、大学のみならず地域社会発展にも貢献できる活動を目指していきたい。

○絵手紙ギャラリー&ミュージアムの開設

大学で取り組んできたさまざまな絵手紙の活動を、実際の絵手紙での交流を通して地域の皆さんに公開するということと、自ら「美術」の授業を担当している澁谷理事長が、学生たちに直接芸術に触れる機会を持たせようと、個人的に収集されたコレクションなどを持ち寄り展示するための施設として、平成26年5月14日に開館となった。

1階部分には、学生たちの絵手紙はもとより、小池邦夫先生から大学に寄せられた絵手紙や地域の方々のかいた絵手紙なども多数展示している。2階には、小池先生の作品に加え、棟方志功、武者小路実篤、徳野大空、深谷徹、町田洋二などの著名な作家、書家、芸術家などの作品を多数展示している。このギャラリー&ミュージアムは前述の手がき文化研究所の活動を補填する目的もあり、手がきの良さをたくさんの皆さんに知ってもらえる機会としての取り組みを今後積極的に展開してく予定である。また地域の皆さんがここを教育や研究に加えた地域交流の拠点として活動を行えるよう、利用の推進を心掛けていきたい。

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、海外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際にアメリカのLilly社において、商業的価値あるものの開発のための譲渡依頼があり、これに応じ、その他カナダのSamuel Lunenfeld研究所から、中国の中山大学から、同様に研究のための譲渡依頼があり、これらにも応えている。

○国際交流の一環としての絵手紙

ビジネス情報学部ではアジア地域ビジネス学科に在籍している留学生が

たくさんいるが、平成24年度からこの留学生たちに日本の文化の理解や日本人とのコミュニケーションの促進を図ることを目的として、新たに美術の授業を開講しそこで絵手紙を教授している。講師は絵手紙協会の公認講師でもある澁谷朋子上武大学理事長である。

筆を持つのも初めてで、絵も描いたことがないという留学生もいたため、はじめのうちはとまどっていたが、徐々に描くことに慣れ「ヘタがいい、ヘタでいい」という絵手紙の基本的な考えにも理解が及ぶようになった授業の後半では、留学生ならではの独創的な味のある絵手紙を描くようになっていった。こうした本学の取り組みに関心を持ったのが、本学の客員教授で日本絵手紙協会会長の小池邦夫先生である。先生は澁谷理事長からこうした話を聞き、留学生に強い関心を持たれるようになった。そこで昨年引き続き今年も7月に小池先生による特別授業を開催した。学生たちは絵手紙のいろいろな話を直接小池先生から披露してもらい、熱心に耳を傾けていた。また実際に描かれた絵手紙を見て、小池先生は「日本人の若者だけでなく、留学生にも十分に楽しんでもらえる、気持ちを伝えることができる」と感想を漏らしており、今後世代を超え、国境を超えて、絵手紙という文化が根付いていく縮図を上武大学に見出していたようであった。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

・学長

厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業中間・事後評価委員、厚生労働省厚生科学審議会専門委員、財団法人がん研究振興財団評議員選定委員会委員、公益財団法人武田科学振興財団理事、公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団研究費審査委員会委員、公益財団法人微生物化学研究会研究アドバイザー、東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授、国立大学法人東京医科歯科大学客員教授、独立行政法人国立がん研究センター東病院外部評価委員会委員、独立行政法人産業技術総合研究所ヒト由来試料実験倫理委員会委員長、第36回日本リンパ学会総会招待講演、平成24年度日本生化学会関東支部例会特別講演など

・その他

私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会委員
伊勢崎市廃棄物減量等推進審議会委員など